

2024 年度



6月 園だより

社会福祉法人雲柱社
五日市保育園

保育園の靴箱に、かわいい長靴が並ぶ日が多くなりました。もうそろそろ梅雨入りでしょうか。梅雨の季節…お洗濯物は乾かないし、大人にとってはなんとなく憂鬱な時期です。でも、子どもたちは園庭にできた大きな水たまりで遊んだり、雨上がりのお散歩でカタツムリを探したりなど、この時期ならではの楽しみをたくさん見つけます。人も動物も虫も植物も、すべての命を成長させてくれる、神様からの恵みの雨に感謝したいですね。

「あなたじゃない…?!」

園庭で遊んでいた2歳児のMちゃん。担任の先生に聞いてもらいたいことがあったようで「せんせい、せんせい」と声をかけていました。でも、先生は大きな声で泣いているおともだちを抱っこしていたため、Mちゃんの声にすぐ気が付きませんでした。近くにいたほかの先生が「Mちゃん、大丈夫よ」と代わりに返事をしたところ…「ねえ、〇〇せんせい（担任）に言ってんだけど」って言われちゃいましたよと教えてくれました。思わずクスッとしてしまうエピソードでした。乳幼児期の子どもの心の発達には、周りの人との間に生まれる心の絆「愛着」の形成が大切です。愛着が形成されることにより、人への信頼感が育まれ、その後の心の育ちや人間関係にも影響を与えます。生まれてから一番近くにいるお父さんやお母さんからたくさんの愛情を受け、保育園や子どもの周りを取りまく大人との愛着形成が出来ると、次は子ども同士でも信頼関係を築けるようになり、結果「一緒にいることが楽しい」と感じるようになります。このエピソードはMちゃんと担任の先生との間に、しっかりと愛着が形成されていることを感じさせてくれるお話でした。きっと一番大好きな信頼できる担任の先生にお話を聞いてほしかったのですね。乳幼児期は子どもの発達に大きな差がある時期です。とくにたてわり保育の中ではその差も大きく、得意なことや苦手なこと、出来ること出来ないことがみんな違います。お互いに助け合ったり協力したり、時にはケンカや失敗も繰り返しながら豊かなコミュニケーション力も身につけていきます。自分のことも、自分とは違う他者のことも大切に思い、多様性を認め合いながら成長していくためには子ども同士の関りがとても大切です。

保育園では子どもたちが助け合ったり協力したり、思いをぶつけ合ったり、子どもたちなりに折り合いをつけてみたりしながら、お互いに育ちあう姿がたくさん見られます。お忙しいこととは思いますが、ぜひ保育参加にもいらしてみてください。

(園長 関根富美子)



みんなであれこれ話し合いながら恐竜の世界をイメージして…